

## 認知療法と他の精神療法の接点

座 長：井上和臣 原田誠一  
シンポジスト：原田誠一 中村 敬 生地 新  
東 斉彰 井上和臣

---

認知療法研究

第 9 卷 2 号 2016 年

別 刷

---

食事を摂りながら講演を聞き論議するという形式を採用した。ゆったりした雰囲気の中で円卓を囲み五感のすべてを活動させて精神療法にまつわる話題を賞味するという趣向であった。

## 2. Japan Psychotherapy Week 2015

JPW 第1夜では、開会を告げる乾杯に続いて世阿弥の『風姿花伝』（世阿弥, 2013）をもとに趣旨を説明した。

およそ、この道、和州・江州において風体変はれり。しかれども、真実の上手は、いづれの風体なりとも洩れたる所あるまじきなり。ひと向きの風体ばかりをせん者は、まこと得ぬ人のわざなるべし。されば、ただ、人ごとに、ひと向きの風体ばかりを得て、十体にわたる所を知らで、よその風体を嫌ふなり。かやうに申せばとて、我が風体の形木のおろそかならんは、ことにことに能の命あるべからず。我が風体の形木を極めてこそ、あまねき風体をも知りたるにはあるべけれ。されば、能弱くて、久しく花はあるべからず。

講演は、原田誠一氏による「和と洋の望ましい邂逅の形とは？」と、中村敬氏による「精神療法が根をもつこと」であった。

JPW 第2夜は、北山修氏による「精神療法における言葉の力」から幕を開けた。講演後の乾杯に続いてプラトンの『饗宴』（プラトン, 2004）から引用を行った。

## V Japan Psychotherapy Week 2015 を開催して

井上和臣

### 1. はじめに

Japan Psychotherapy Week (JPW) は我が国の臨床に欠かすことのできない精神分析、森田療法、行動療法、認知療法・認知行動療法等について討議し学ぶ機会として年来夢想してきたものである。精神療法に関わる複数の学会が同時に、あるいは重複期間を含みながら相前後して、同一の会場で開催される、それがJPWである。

JPW 企画運営委員会（代表 井上和臣）では、JPW2015「和と洋の邂逅」を神戸旧居留地のホテルで1週間の間隔を開け2夜にわたって開催した。JPW2015は学術講演会であるが、参加者が

ソクラテス：それでは、エロスは、死すべきものなのでしょうか。

ディオティマ：死すべきものと不死なるものとの中間にあるものなのです。

ソクラテス：とすると、何でしょうか。

ディオティマ：偉大なダイモンです。ダイモンとして位置づけられるものはすべて、神と死すべきものとの中間に位するのです。人間たちのところから出てくるものを神々のために、また神々のところから与えられるものを人間たちのために、通訳したり伝達したりします。ダイモンの媒介的な仕事について精通している人は、ダイモ的な人

間という訳で、ダイモンは、数も多く、実はエロスもその中の一つなのです。

JPW2015の参加者は、第1夜が37名、第2夜が46名であった。参加者の勤務地は、兵庫県が37名ともっとも多く、近畿（兵庫県を除く）が9名、中国・四国・中部17名、関東3名であった。参加者の声を抜粋する。

認知療法について学び始めて日の浅い者にとっては、原田先生の、「本を読みながら我流で始めた」というご発言や「実際の症例の手書きグラフ」を見せて頂き、手探りで始めたご様子がわかり、精神療法をはじめるときは、とにかくやってみることが大切だと思いました。中村先生のお話では、「目の前のことに打ち込むことが、認知の変化につながる」とおっしゃっているように聞こえました。北山先生からは、初めて精神分析療法について聞くことができよかったです。「反復の発見」というのは、認知療法の概念化と通じるところがあると思いました。

第1夜についての感想ですが、会の内容もさることながら食事しながらの講演であることや、アジアンテイストな雰囲気の中であることが、とても新鮮でした。内容については、久しぶりに原田先生のお話が伺えたことと、森田療法の話や「脱・学会」的な雰囲気でお伺いすることがよかったです。治療法にこだわって治療を見失うことは患者不在の治療であり、治療や患者指向を失わないためには、認知療法は精神科治療のみならずいろんな技法に溶け込んでいく必要があると思っています。

第1夜の中村先生のお話ですが、精神療法が「根をもつ」とはどういうことかという自分では考えたことのなかった問いと、先生のお考えをお聞きすることができました。精神療法にかぎらず精神医学自体、もとは西欧やアメリカから輸入されてきたものであり、精神医学が「根をもつ」とはどういうことなのだろうとも考えながらお聞きしておりました。第2夜の北山先生のお話ですが、あえて分析の言葉をあまり使わずに、ウィニコットの対象関係論の骨格について、整理してお話していただき、とても参考になりました。また普段

の講演会ではあまり見ることのできないような、エキサイティングな質疑応答を目にすることもでき、大変興味深い時間を過ごせました。

### 3. おわりに

認知療法に、対人的、行動的、精神力動的精神療法を統合する力を見出す論がある(Alford & Beck, 1997)。しかし、JPWは精神療法の統合とは一線を画す提案である。Freudが『ある錯覚の未来』(フロイト, 2011)で述べた一文を、精神分析という語を精神療法に置き換えて、引用したい。

実際には精神療法は、たとえば微分積分の計算などのようにひとつの研究手法、特定の党派に肩入れすることのない一手段である。

JPWにおいて認知療法は触媒の役割を果たし消えていくことになる。Vanishing Cognitive Therapy (井上, 2008)がJPWの誕生と表裏をなす。

JPWの近未来について、1. 神戸を開催地とする、2. 饗宴(供宴・競演・協演・共演)形式とする、の2項は決定している。唯一残された重要な案件はJPWをどの1週間とするかである。Freudの誕生日(5月6日)に始まる1週間とするか、森田の誕生日(1月18日)とするか、それともBeckの誕生日(7月18日)とするかである。

#### 引用文献

- Alford, B.A. & Beck, A.T. 1997 The Integrative Power of Cognitive Therapy. Guilford Press.  
フロイト, S., 高田珠樹(訳) 2011 ある錯覚の未来。フロイト全集 20. 岩波書店。  
井上和臣 2008 日本認知療法学会—経緯と将来展望。認知療法研究, 1, 10-15.  
プラトン, 戸塚七郎(訳) 2004 饗宴。グーテンベルク 21。  
世阿弥, 竹本幹夫(訳注) 2013 風姿花伝・三道 現代語訳付き。角川学芸出版(角川ソフィア文庫)。